

平成24年3月31日

小金井市長 稲葉 孝彦 様

「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市次世代育成支援後期行動計画)
平成22年度事業進捗状況の評価について(報告)

本推進市民会議は、「のびゆくこどもプラン 小金井」(小金井市次世代育成支援後期行動計画)の推進にあたり、利用者側の視点に立った点検・評価を行うため、その評価の方法、個別事業の平成22年度進捗状況について鋭意審議を重ねてまいりました結果、別添のとおり各委員の意見についてここに報告いたします。

「のびゆくこどもプラン 小金井」推進市民会議
会 長 高橋 智
職務代理 三橋 誠
委 員 池田 恭一
石黒真理子
小山 正弘
齋藤 徹子
佐野 仁一
高橋 亜美
三井 正勝
文 弘樹

報告にあたって

「のびゆくこどもプラン 小金井」推進市民会議（以下「推進市民会議」という。）では、平成24年1月に審議をスタートしてから、3回に渡って審議を行った。審議対象である「のびゆくこどもプラン 小金井」（小金井市次世代育成支援後期行動計画、以下「プラン」という。）は、本市における子どもと子育て家庭を支援するための総合的な計画であるため、その内容は多岐に渡り、157事業に及ぶ個別事業がある。推進市民会議の所掌事項はプランの進捗状況等について評価を実施すること等により、プランを総合的に推進し、計画の実現を図ること等であるが、3回という短い審議時間の中では、各施策の進捗内容の把握や委員間での十分な検討・意見の集約ができなかった。

今後も、推進市民会議は限られた時間で、効率的かつ効果的な点検・評価を行わなければならないことから、審議を円滑に行うため、以下のとおり改善を要望する。

1 推進市民会議の運営について

今年度、推進市民会議は3回の審議を行い、点検・評価方法の確立及び個別事業に対する審議を行ったが、審議を行うにあたっては、多岐に渡る事業の内容を把握し、丁寧な検証作業を行うことが不可欠である。また、社会環境の変化に伴う子育て支援施策に対する要望が刻々と変化していく中で、プラン以外の事業に対しても積極的な提言を行っていくことが求められている。それゆえ、3回の開催回数では全てを十分に審議するには不足しており、次年度以降は開催回数を増やすとともに、事業内容を把握するために十分な時間が取れるよう開催スケジュールの改善を要望する。

2 市民からの意見募集とPRについて

市民から推進市民会議への意見・質問等の受付を実施すること、推進市民会議の役割や審議の様子を広報することを要望する。市民の意見・質問等を審議に活かすことが、利用者の視点に立った点検・評価に繋がっていくものになるからである。また、これだけの多岐に渡る事業が実施されているにもかかわらず、その内容については市民に広く認知されているとは言い難い。意見・質問等の受付や推進市民会議のPRをとおして、プランの認知度を向上させ、着実な推進に繋げる必要がある。

3 事業進捗状況一覧の記述内容について

評価の方法欄に記載されている評価指標があるにもかかわらず、進捗状況として記載されている年度の事業実績と内容が評価指標と対応していないものが見受けられる。また、未実施や一部未実施となっている事業について、未実施の理由が記載されていないものがある。審議の阻害要因となるだけでなく、未実施事業についても市民の関心事であることから、これらについて改善を要望する。

4 事業進捗状況に対する評価について

事業進捗状況に対して自己（事業担当課）評価、利用者評価、実施者評価等を行うことを要望する。単に事業実績を記載しているだけでは活動量（参加者数等の数値）の意味するところは不明であり、また、数値の増減等では事業の評価をすることは難しい。それゆえ、自己（事業担当課）評価は必須であり、その評価理由・背景を明記するよう希望する。加えて可能な限り、利用者や実施者の評価があることが望ましい。

5 関係各課の推進市民会議参加について

今年度の推進市民会議には、事務局である子育て支援課の他、子ども家庭部各課の参加を得ている。しかしながら、当プランは、本市における子どもと子育て家庭を支援するための総合的な計画であり、事業分野は児童福祉、障害福祉、母子保健、教育等と各分野にまたがっている。当プランの推進のためには、各分野の事業担当課と推進市民会議の連携・情報共有は不可欠であり、推進市民会議の審議状況に応じて、事業担当課の参加を要望する。